

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	りつめいかんうじちゅうがっこう・こうとうがっこう				②所在都道府県	京都府
26～30	①学校名	立命館宇治中学校・高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	中学校：537名 高等学校：1022名（IBコース61名、IMコース182名、一貫・普通・文科・理科コース779名）※文科コース・理科コースを平成26年度高校2年より開講。	
IMコース	84	49	49		182		
⑥研究開発構想名	社会貢献とイノベーションの志で問題解決に挑む人材の育成						
⑦研究開発の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化再認識を土台に「宇治・京都・世界をつなぐグローバル・アントレプレナーシップ」を英語で追究する課題研究【IM】 ・IBDP方式による日本語PBL型科目「TOK」「歴史」「物理」開発【文科・理科】 ・多様な海外派遣、トリリンガル・スポーツ留学導入【高・中・IM】 ・国際高校生フォーラム、短長期留学生大規模受入【高・中】 						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>① 構想の目的：IB・IMを中心にグローバル人材育成教育を高度化し、日本の中等・高等教育の質的転換に貢献する。</p> <p>② グローバル・リーダー像：社会貢献とイノベーションの志を抱き、世界の人々と共同し、問題解決に挑戦する人材。</p> <p>③ 達成目標：2割が海外大学へ進学する、4割が英語で授業を受ける、8割がCEFR B1以上の英語力、10割が社会貢献活動に参加する。（平成30年度卒業時の学年生徒比）</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、確かな基礎学力と高度な問題解決型学力の養成、海外進学に道が開かれた中高大一貫教育を通じて社会に貢献する人材の育成をめざしてきた。近年、IBコース・IMコースの展開により、海外大学への合格者・進学者が増加し、成果が出始めている。今後はIB教育が本校グローバル・リーダー育成の牽引役を果たすと同時に、「国内育ちの生徒がグローバル・リーダーとして成長する」ことを圧倒的な規模で実現するために、次の仮説に基づく研究開発を行う。</p> <p>① 仮説1：IMコースでのグローバル課題をテーマとした英語による課題研究実施により、社会意識の深化、問題解決型学力とアカデミックな英語力の伸長が実現する。</p> <p>② 仮説2：IBDP「TOK」「歴史」「物理」を日本語授業化するための研究・実践により、生徒の知的関心・学習意欲の向上、教科学力と問題解決型学力の伸長が実現する。</p> <p>③ 仮説3：IMコースの長期留学制度の改革、海外派遣企画の充実、海外大学研修や短期留学の拡充等、海外派遣プログラムの総合的充実により、より多くの生徒の挑戦、社会認識、外国語力、異文化理解力の向上が実現する。</p> <p>④ 仮説4：国際高校生フォーラムでの海外高校生共同PBL、短長期留学生の大規模受入等、海外受入プログラムの総合的充実により、全校生徒の日常的な異文化環境の保障や外国語学習への意欲喚起、IMコース課題研究との相乗効果による質的充実が実現する。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>① SGH校対象研究協議会（公開授業を含めたSGHフォーラム）の開催</p> <p>② 国際高校生フォーラムにおける国内高校との連携</p> <p>③ 立命館一貫教育部が推進する海外大学進学支援プラットフォームの普及</p> <p>④ インターネットでの成果発信（英語版サイトの充実）</p>					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 統一テーマ「宇治・京都・世界をつなぐグローバル・アントレプレナーシップの研究」の下、以下の3テーマから一つを選択し、研究に取り組む。 ①【政治・経済】世界の環境・社会問題を解決するソーシャル・ビジネスの研究 ②【経営】グローバル企業におけるCSR戦略の研究 ③【文化】宇治・京都の文化を世界に発信するビジネスの研究 (2)実施方法・検証評価（平成26年度の概要） ① 科目名「Global Leadership Studies」（2単位×3年間）を2時間連続授業で設定。 平成26年度は、2年後に開始する課題研究のための土台づくりと位置づけ、日本文化の再認識と、3つのテーマに関わるグローバルな社会課題の総合的・基礎的理解をめざす。 ② 第1ステージ「日本文化再発見講座」（1年次1学期、全10講座） 「世界遺産（平等院）」「宇治茶」「日本の精神（武道）」をテーマに、文化人・研究者による講座を実施する。「世界の中の日本文化」を視点に、講演、質疑応答、討論を行い、講座内容・意見を毎回レポートにまとめさせる。 ③ 第2ステージ「グローバル・リーダーシップ講座」（1年次2学期、全10講座） 「政治・経済」「経営」「文化」をテーマに、連携する大学・諸団体や本校グローバル人材育成支援会、および過去に講演いただいた関係者の協力で各講座を実施する。現代のグローバルな社会課題の基礎的理解を目標とする。授業方法は第1ステージと同様。 ④教材開発：参考文献の指定、映像・動画教材の作成、独自テキストの開発と共に、生きた教材と言える「人」のネットワークを蓄積し、キャリア形成につなげる。 ⑤検証評価：講座内容に関する理解、主体性、興味関心の視点から検証評価する。 ⑥連携先：立命館大学・立命館アジア太平洋大学、JICA、国際交流基金、本校支援企業</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価（平成26年度の概要） ①IBDPの方法論を活かしたPBL型授業科目の研究開発：IB「TOK」「歴史」「物理」担当教員の授業見学、教材・教科内容・授業法・評価法の課題を明らかにし、その到達点を検証評価する。 ②多様な海外派遣および短長期留学派遣プログラムの研究開発：海外派遣は参加生徒枠を50人に拡充する。UBCターム留学、スタンフォード大学夏季研修への参加を促進する。IMコースのトリリンガル留学は、韓国・タイ・スウェーデンへの受入協定締結をめざす。スポーツ留学は競技および派遣国の可能性を探る。各課題の到達点を検証評価する。 ③国際高校生フォーラムおよび短長期留学生受入プログラムの研究開発：フォーラムは、平成27年度開催に向けて教員・生徒実行委員会を立ち上げ、準備を開始する。交流実績のあるEton College (UK)、Applied Technology High School (UAE)にも参加を呼びかける。留学生大規模受入は、日本語授業を開講しながら、現在の提携校に呼びかけて行く。フォーラムの準備および留学生増加の進捗状況を検証評価する。 (2) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 ①IB教育の質的充実と海外大学進学者の拡大 ②現地校型帰国生・外国人生徒の受入拡大 ③「グローバル・リーダーシップ講座」の開催 ④国際的な地域貢献での生徒の活躍促進（鳳凰杯、Rits Kids等）</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校はIBDP認定校として今春3期生を送り出すが、過去3年間のディプロマ取得率は71%→80%→100%、ディプロマ平均点（45点満点）は30.1点→32.5点→33.3点と前進を遂げている。また、それに連動し、海外大学進学者も5人→9人→11人と前進している。平成24年3月卒業生は、世界ランキング50位以内の海外大学（日本は東大のみ）にのべ10人が合格し、総計48大学のべ56人の海外大学合格を果たした。今後もIBコースが先陣を切りつつ、IMコース、文科・理科コースにおいてグローバル人材育成の仕組みを確立する。</p>

ふりがな	りつめいかんうじちゅうがっこう・こうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	立命館宇治中学校・高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	300人
	SGH対象生徒以外:		134人	179人	人	人	人	700人
目標設定の考え方: 高1で義務づけるボランティアは年間10時間を超えるものを算入。IBは全員CAS、IMIは留学先で奨励。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	150人
	SGH対象生徒以外:		97人	101人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 全員参加の海外研修旅行を除き、IMコース生徒、短長期留學生徒、GCP、海外大学研修への参加を促す。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したりしたいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		42%	46%	%	%	%	80%
目標設定の考え方: グローバル人材育成の教育実践を通じて大半の生徒がそう考えるように促す。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: IB・IMを中心に、模擬国連日本大会や各種大会に挑戦するよう促し、成果を出す。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		21%	22%	%	%	%	70%
目標設定の考え方: CEFRのB1レベルをTOEFL-ITP477以上と換算。ISF・GCPへの参加者増、ICT活用により全体のレベルを上げる。								
学校が主催する国際・英語関連行事・事業の運営に従事する生徒数								
f	SGH対象生徒:							150人
	SGH対象生徒以外:		94人	112人				200人
目標設定の考え方: ISFや留學生交流企画、全国中学生英語コンテストやRits Kids等の運営への参画を促進する。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	98%	98%	%	%	%	%	%	100%
目標設定の考え方: 立命館系列には約90%が進学しており、海外大学も含めるとほぼ全員が国際化重点大学へ進学する状況。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	9人	12人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: IBを中心としつつも、IMから毎年20人が海外へ進学するレベルをめざす。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	—	—	%	%	%	%	%	0%
目標設定の考え方: SGH課題研究はIMのみで実施する。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	80人
	SGH対象生徒以外:	100人	100人	人	人	人	人	人	120人
目標設定の考え方: 現状の数字は予想数概算。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	100人
	目標設定の考え方:IMは高2春に課題研究テーマに関わる海外研修に全員が参加することを予定。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	100人
	目標設定の考え方:IM3年が立命館アジア太平洋大学で課題研究に関わる研修を開催することを予定。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	0校	0校	校	校	校	校	校	20校
	目標設定の考え方:ISFで20校、UBCからインターン派遣された学生との連携をめざす。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	38人	41人	人	人	人	人	人	70人
	目標設定の考え方:現状は理系課題研究での大学との連携を実施。今後は系列大学との連携を通じて、IM課題研究を促進する。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	0人	人	人	人	人	人	30人
	目標設定の考え方:年々広がりを見せる国内外のヒューマンネットワークを駆使し、協力を仰ぐ。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	100人
	目標設定の考え方:上記の大会情報を調査し、積極的に生徒の派遣を促進する。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	306人	359人	人	人	人	人	人	500人
	目標設定の考え方:在籍する帰国生(中高)、および長期・短期留学生の合計。今後、留学生の受入規模を増大させる。							
h	先進校としての研究発表回数							
	3回	4回	回	回	回	回	回	5回
	目標設定の考え方:英語科、社会科、国語科が公開授業協議会を毎年実施。今年度はIBも実施。今後は、SGH協議会を追加実施。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△						○
	目標設定の考え方:外国語サイトを整備し、トピックの更新頻度を上げる。							
j	本校グローバル人材育成支援会への加入企業・団体数							
	7社	8社	社	社	社	社	社	30社
	目標設定の考え方:SGHの実践を進める過程で企業・団体に幅広く呼びかけることで目標を達成する。							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	1,600	1,636	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							